

わが国と結核低蔓延諸国における結核患者サーベイランスの比較検討：情報収集項目

^{1,2}泉 清彦 ¹内村 和広 ^{1,2}大角 晃弘

要旨：〔目的〕日本と欧米諸国との結核患者サーベイランス情報項目について比較した。〔方法〕日本・オランダ・英国・米国を対象に，調査票による比較研究を行った。結核患者サーベイランスにて収集している情報項目について類型化し，特徴をまとめた。また，日本以外で収集している情報項目，治療成績，潜在性結核感染症と接触者健診情報に関して比較した。〔結果〕調査対象国は36～43項目の情報を収集していた。日本以外の対象国では，結核の社会的リスク要因や，外国人結核患者の詳細な情報などを収集していた。治療成績は概ね共通していたが，英国と米国では，治癒と治療失敗が設定されていなかった。日本のみ自動アルゴリズムによる成績判定を行っていた。また，日本以外では，結核菌遺伝子型情報，潜在性結核感染症患者情報，および接触者健診に関する情報を収集していた。〔結論〕わが国の結核患者サーベイランスへの提言として，結核の社会的リスク因子に関する情報項目の精査，結核菌遺伝子情報の追加，保健所の担当者による治療成績判定への変更，潜在性結核感染症患者情報を含めた接触者健診実施状況の情報収集と評価，等が考えられた。

キーワード：結核，サーベイランス，調査項目，リスクファクター